

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	尾道市向東地区家庭教育支援チーム (呼称：“親ぢから”)
活動開始年度	平成20年度
活動拠点	尾道市立 向東小学校区
活動範囲	向東町内全域(子育てサロン・幼稚園・保育所・小学校・中学校・公民館)
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(学校・家庭・地域の連携協力推進事業) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施
組織体制	<u>12 人</u> (子育てサポーター・主任児童委員 1人、幼稚園PTA 2人、保育所後援会 2人、小学校PTA 1人、中学校PTA 1人、地区社会福祉協議会 会長 1人、地区青少年健全育成協議会 会長 1人、市議会議員 1人、助産師、1人、有志 1人)
具体的な活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>家庭教育学習講座の企画・実施</b> (保護者・教職員・地域の人対象) CAP講座、家庭教育講演会、子育て講演会、食育など</li> <li>2. <b>家庭教育基盤づくり講座の企画・実施</b> (保・幼・小・中学生対象) CAP講座、夕顔運動、生と性の話、わらべうた、子育てサロンと中学生との保育交流など</li> <li>3. <b>公民館との共催講座の企画・実施</b> 絵本紙芝居まつり、防災教室、認知症についての講座、親子で楽しむクリスマスコンサート、ピアノコンサート、夏休み子ども教室、冬休み子ども教室など</li> <li>4. <b>子育てサロンとの共催講座実施</b>  HALF成人式、お父さんの子育てトークなど</li> <li>5. <b>グループワークの推進</b>(仲間づくり・連携・自立を目的とする)</li> <li>6. <b>家庭教育に関する情報提供</b></li> <li>7. <b>相談対応</b> 子育ての悩み、いじめ・不登校、子どもの問題行動、親同士の間人間関係など</li> <li>8. <b>子育てサロン・保育所・幼稚園・小学校・中学校間等の連携のコーディネート</b></li> <li>9. <b>家庭教育に関するアンケートの実施</b> (現在までに2回実施し、現状把握している)</li> <li>10. <b>地域のまつりへの参加</b>(コンサートの提供) 出演者は地域で活動しているジュニアコーラス、ハンドベル演奏グループ、ジ</li> </ol>



	<p>ユニアによるバイオリン、和楽器演奏など</p>
<p>活動を通して感じていること (成果、課題など)</p>	<p><b>&lt;成果&gt;</b></p> <p>1. 教育現場との連携・信頼関係が確立し、家庭教育基盤づくりとしての学習の提供が定例化してきた。(例:子育てサロンと中学生との保育交流、4年生親子CAP講座、1年生親子と地域の人と共に行う夕顔の取り組みなど) また、子どもたちの様子によっては提供すべき学習内容を共に検討し、実施できている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>2. 地域の中での当チームの位置が確立し、認知度が上昇した。公民館や子育てサロン等との共催・協力によって、地域力が強化されている。</p> <p>3. 保護者同士の繋がりや仲間作りが充実している。</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <p>1. 町内には保・幼・小・中学校が各1つずつあり、連携を取りやすい状況にあるが、高校からは町外の学校へ進学するため、高校生になった子どもたちの様子がほとんどわからなくなり、子育てサロンから中学校まで繋がってきた家庭教育支援が途切れてしまう。 高校生自身やその家庭への支援・見守りについて考えていく必要がある。</p> <p>2. 問題を抱えている家庭の把握と、相談体制の一層の充実を図ること。</p>